

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員と共に考えた独自の理念がある。「自分らしく、居心地のよい、安心できるグループホーム」「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ユニット内に掲示してはいるが、職員の意識や、ケアには十分に反映しているとは思えない場面が時々感じられる。サービス計画書作成時には理念に基づいて作成している。</p>	<p>サービス計画書を作成する時、行動障害でケアの方向性が見つからない時等職員の話し合いの場で多いに理念に沿ったケアを検討してはいるが、もう少し職員が周知出来るように活用していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居の相談が合った際、入居の契約を交わす際、サービス計画書を検討する際、運営推進会議、ボランティア訪問の際、町会の方や児童との交流の際、夏祭りの行事の際、法人やグループホームだよりを利用して等情報提供しながら理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>散歩の時近所の人と挨拶を交わす、小学校の慰問やボランティア等の受け入れを行っている。又、今年から夏祭りを開催し、保育園児、小学校児童、地域の方に参加して頂けるように案内をだしたり、小学校や保育園には無料券を配布している。町会長や地域協力委員等の協力も得られている。廃品回収、キャラバンメイト6/3西小学校5年生児童を対象に福祉体験学習を実施している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>各自に自己評価票の記入を行わせている。具体的な改善点を目指し実行できるように職員で検討している。</p>	<p>各自が自己評価を記入することで、職員の意識、気づき、レベルを管理者としては確認することができた。職員からは、まだ確立していない事等が見えてきた。これを機に入居者の方を中心としたケアが定着できるように新しい発想で取り組んでいきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者、御家族、市の職員、地域包括センターケアマネ、町会長、民生委員、協力委員等のメンバーで構成され、具体的な意見が出るため、すぐにサービスにつなげることが出来ている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>問題や分からない事は、電話や担当窓口へ出掛け相談している。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在対象者はいないが、対象になりそうな方の親族には制度の仕組みを伝えている。職員にかんしては、新人職員を含め制度を知らない職員がしる。</p>	<p>職員にかんしては、年に1回は研修していく機会をもうけていく必要がある。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年に1度職員研修学ぶ機会をもうけているが、新人職員は研修を受けていない。</p>	<p>職員にかんしては、年に2回は研修していく機会をもうけていく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの管理者の離職や異動が多い。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じて研修を計画している。又、年1回法人全体の研修会、月1回グループホーム研修会や法人業務別研修会を実施し、参加出来なかった職員には報告し共有しスキルアップに努めている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>津軽地区老人福祉協会の総会や研修を通じて同業者との交流を図ったり、同法人3カ所との合同研修会、年に3回法人の親睦会、年に2回事業所の親睦会を実施している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の表情や態度を気に掛けている。個人的に話を聴く機会も設けている。法人や事業所内の親睦会や交流会の参加で意見を交換出来る機会がもてるように取り組んでいる。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>仕事を楽しみと思える施設作りを目指している。法人では、資格取得のための勉強や資料の提供、受験料の負担もしている。各ユニットの状況をもう少し把握出来る様な機会を設けて欲しい。</p>		<p>運営者はグループホーム管理者会議に出席する機会を設けて欲しい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時よりゆっくり話を聴き悩みや心配事を聴き出すように配慮している。又、私の希望・家族の希望の用紙を準備し記入して頂くようにしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、御家族、担当ケアマネと話し合い相談し、最良の方向性を見極めるように努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居されている方の中には、認知症のため、納得されていない方もいらっしゃる。その方には、都度状況に合った対応を職員、御家族、かかりつけ医と話し合い安心して馴染めるような環境作り言葉掛けを工夫している。場合によっては御家族の面会、外出、外泊を取り入れたりし対応している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として接して、園芸、漬物作り、手芸等出番や役割がもてるような関わり方や持参された慰霊と一緒に手を合わせる、家に帰りたくと話す方の聞き役になる等帰りたくと思っている気持ちをくみ取るようにしている。</p>	<p>その方に合った出番や役割一緒に関わって過ごす時間がもう少し必要だと思える為、職員への周知が必要と思われる。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>御家族との信頼関係を築き、行事参加(誕生会・夏祭り)や面会時必ず言葉を掛けて思いを引き出したり、受診も全面に御家族に負担が掛からないような調整を図っている。</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>御家族が面会に来ることがおっくうにならないよう、又、ご本人と御家族との間でスムーズに会話が図れるように、面会の前に近況報告をしている。</p>		
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話をかけたいと思っている時の支援、気軽に面会や電話が出来るような支援、一緒に御茶等を飲みながら過ごせる工夫、居室以外の和室やホールで談話できるような家具の配置を工夫している。両者の会話がぎこちない時は、職員も一緒に過ごす等の工夫もしている。</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>一人で過ごしたいと思っている時間を大切にしながらも一緒に過ごす時には、みんなが感心もて、話に参加出来るような話題の提供や、入居者同士が譲り合うことや支え合う関係作りが自然に出来るように職員の距離感等に工夫をしている。</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>定期的に電話で連絡をとり双方の状況等報告し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の情報収集と入居時やサービス計画書作成時に本人の意向を伺い個別に対応出来るように支援している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>御家族、御本人、担当医やケアマネから情報を収集している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>その日の出来事、バイタル測定、食事量、排泄状況、睡眠、入浴、受診等をケース記録に記入し、業務日誌に記録をしている。又、サービス計画書に沿って毎月まとめを出したり、毎月のGH会議で入居者状況を話し合っている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>御本人、御家族から意見を伺い、担当者会議を開催し意見を吸い上げる取り組みをしている。毎月1回、カンファレンスを開催職員一同で話し合い検討し、御本人と御家族から同意を得て作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間以外でも、変化が生じた場合は、本人や家族、職員と随時、担当者会議を開催し新たな計画書を作成している。又、毎月計画書どうりサービスが行われているか、本人の状況はどうかまとめも記入している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録用紙、担当者会議の要点用紙、毎月の入居者状況用紙に記入し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居申し込みをされてからホームに入居される間、退居された後等は特にデイサービス、居宅介護支援事業者、ヘルパー等を状況に応じて情報を伝え、選択出来る機会を提供したり必要に応じて紹介をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方に関しては、運営推進会議、避難訓練、協力委員等の協力が得られ、小学校に関しては、小学児童の慰問・体験学習・夏祭り開催時に駐車場を借りれる等の協力が得られている。		慰問の機会をもう少し増やしたい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃からネットワーク作りを行い、希望があった際は、本人の意向や必要性に応じて、他の事業所等と連絡調整を図り、選択できる機会を提供している。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には参加して頂いている。その際相談にのって頂いたりしている。現在、権利擁護や長期的なケアマネジメントについて該当する用件はない。		必要があった際は、随時相談していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医がいる。夜間や休日対応出来ない病院もあるため、その際の対応も事前に御本人や御家族と話し合い決めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者によって、認知症専門医をかかりつけ医としている方もいらっしゃる。ホーム協力病院にも専門外来窓口があるため随時対応できる。又、本人や家族にも説明している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	内科や外科、認知症等にも詳しい担当看護師が配属しており、個人ケースに状況を記入したり、今後考えられることや、アドバイスを職員や入居者が受けている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御本人、御家族、病院関係者と随時情報交換等連絡はとっている。病院によっては情報は家族の方に伝えていきますからホームに状況を教えて下さらない所もある。退院時の身体状況にあ応じた居場所の確保の為に入所場所等を探したりもしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで左記該当ケースはなかった。方針は共有していくつもりだが、いざ左記のケースになると職員の配置やレベル、施設の設備、家族の協力の必須等不安材料がある。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今まで左記該当ケースはなかった。看取りの方針についてマニュアルは準備しているが、「できること・できないこと」をもう少し具体的に各ユニットを交えて再度検討する必要がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>排泄表やケース記録や業務日誌等をカウンターにおきっぱなしにしていることも時々見受けられるため再度周知させていく必要がある。</p>
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>職員の言葉の選択と一人ひとりのペースに寄り添ってケアをしていく場面を増やしていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>2ヶ月に1回美容室と理容室がホームに来て下さり散髪を行っている。各自で希望を伝えたり、コミュニケーション能力や認知度に応じて職員が伝えたりしている。家族と一緒に入居前から利用している所へ出掛け方もいらっしゃる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等、「できること」「できないこと」「きっかけをつくりできること」等把握し、能力に応じて利用者が出番や役割が出来るように支援している。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	三階の利用者は喫煙されている。安全で落ち着いて喫煙出来る場所で行っている。飲酒希望者は現在いないが習慣があれば対応していく。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人により時間帯系列の排泄表を使用し観察している。御本人に合った排泄用具、トイレ誘導を行っている。日中綿パンツにパット、夜間帯紙パンツにパット。改善され紙パンツから綿パンツで生活されている方もおられる。トイレで排泄する事を目標にしてケアを提供している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	建物の構造上午前中しか入浴出来ない(シャワー浴はいつでも可能)。入浴を体調不良以外は毎日済ませる方、疲れるからと2日に1回の方、入浴を大義がる方には気分に合わせた声掛け等工夫し、入浴後は「気持ちよかった」という言葉が自然に出るように支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御本人の生活ペースで休息できるように支援している。一人で過ごす時間も大切にして、休息している時は見守りをおこなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、野菜作り、散歩、買い物、漬物作り、おしゃべり、御家族との外出等の支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員や御家族と相談し、自己管理出来る方、所持していないと不安になる方を検討し対応している。上記の場合には、おこづかい帳を職員が記帳したり、レシートを管理している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、散歩、買い物、野菜作り、御家族との外出、受診等外出支援を行っているが、時折職員の都合で「後でね」「今度ね」と言ってしまう場面もある。ユニットで調整できない時は、別のユニットの協力を得ている。		職員全員が、その方のその時の思いに添えるような時間の調整や段取りがスムーズに出来るようにもう少し努力する。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の中でドライブとして取り入れたり、個別に対応したりしている。場面によっては御家族のご協力を得て行っている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の申し出もあり、左記についてすべてに対応はしていない。認知の度合いや申し出の深刻さや頻度を観察しながら支援をおこなっている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と一緒にお出迎えしたり、見送りをしている。「またいらしてください」等の言葉も添えている。面会場所も自室、ホール、和室を自由に使える事も伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで研修会や会議で周知している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに関しては職員に周知させているが、無断外出の事故もあり臨機応変に対応している。職員により、声掛け、見守り、活動の工夫もせずに安易に施錠している場面が時々みられている。		個々に応じた帰宅願望への対応を検討し、全職員がケアに生かしていく必要がもう少しある。又、無断外出事故も防いでいく必要がある。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	6時、10時、15時、22時、1時、4時と業務日誌に所在確認のチェック欄をもうけている。昼夜を問わず所在の確認をプライバシーに配慮しながら行っている。又、上記時間に問わず所在確認も行うようにしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の裁縫箱、ハサミ、洗剤の管理については、御本人や御家族、職員と話し合い検討し、個々に応じて対応している。3階では裁縫箱や洗剤を本人管理にしているのは1名。		これからも、認知力、精神状態、生活様式を各方面から慎重に検討し個々に合った対応を行っていく。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒：歩行状態にあったケア(付き添い、手引き介助、見守り等)。窒息：食事時、睡眠時、入浴時の見守り巡回。誤薬：病院内で処方箋を受けとった時確認、調剤薬局からの受け取り時、服薬セット時確認、手渡し時確認している。行方不明：緊急時連絡体制等のマニュアル整備を定時の所在の確認をしている。特に帰宅願望がある方には気をつけている。火災：夜間想定と日中想定での消防避難訓練年2回実施している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今年度は法人研修で毎月医療に関する研修を行っている。マニュアルも整備、救急救命講習も受講し職員の周知を図っているが、新人職員や経験の浅い方の周知にももう少し力をいれていきたい。		状態観察の仕方、水銀計の測定の仕方、記入の仕方も含め周知させていく必要がある。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	年2回消防避難訓練を夜間想定、日中想定で実施している。平成20年5月12日の夜間想定避難訓練では協力委員、町会長、民生委員の方等運営推進会議に参加して下さるメンバーの方の協力や意見等を得ている。		災害に関して、運営推進会議でも話題となり、水害や地震災害の対策について話し合いを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から職員と話し合い、面会時等に生活状況の報告と状況から考えられることを御家族に話している。起こり得るリスクの説明と、未然に防ぐようなケアを行っている事も伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食欲、睡眠、排泄、生活態度、表情、活気等にも日頃から観察しており、特変時の観察の徹底、看護師への連絡、御家族と連絡をとり早目に受診等で対応している。上記の一連の流れはケース記録や業務日誌に記録をしている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師からの情報を職員が周知し、御本人に合った服薬を支援している。手渡し、薬の封を切り渡す、飲み込むまで確認等とその方に合わせて支援している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫とし、事業所の栄養士と相談し、海藻類、食物繊維、発酵食品食材の提供。水分補給の工夫として、個人により水分補給を時系列で記入している。利用者全員に毎日牛乳200cc提供し、8月から手作りのヨーグルトを提供している。個人により、ヨーグルトを購入している。運動に関しては、散歩や車椅子の方には離床を促すきっかけを提供している。御本人、御家族、ホーム担当看護師、担当医と相談し御本人に合った下剤と適量を観察している。		体操や運動する時間を毎日行うようにしていきたい。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケア実施しケアチェック表に記入している。毎食義歯の方には入れ歯洗浄剤使用。御本人の能力に合わせて声掛けや介助を行っている。往診に来て下さる歯科医とも相談している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	緑茶、麦茶、冷水、牛乳、紅茶を常時準備し提供している。時々コーヒーやジュースを提供している。毎食、御茶や水を提供し、10時と15時に上記を提供している。個人でコーヒーを準備されている方もいらっしゃる、希望時に提供している。個別に水分量を時系列で記入しながら確実に水分確保出来るように支援している。ケアチェック表にて1日の食事量、水分量を観察し記入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人でマニュアルを作成し準備している。法人の研修会で毎年研修を受けている。職員や利用者の手洗いやうがいの徹底や手指消毒剤やジェットタオルを使用している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理:携わる方の手洗いのと手の傷や体調の配慮の徹底。キッチンハイターでの毎日の台所掃除や調理道具の消毒の徹底。定期的な冷蔵庫の掃除。食器拭き台拭きの消毒と乾燥。安全な食材:賞味期限の確認、流水での水洗い、火の通し方を徹底している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	掃除の徹底と植物、小物、手作りの壁掛け、布を使用して清潔感やあたたかみのある家庭的な雰囲気が演出出来るように工夫している。又、衛生面に配慮して、手指消毒剤を玄関に、うがいをホール洗面所で自由に出来るようにセットしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい、清潔感がある、家庭的な雰囲気の中にも四季を感じられる生花や飾り付けを取り入れている。和室で過ごす時やテレビソファの一部に西日が当たるがその際はカーテンを利用し遮光している。風通しが良い為、風の強さにも気をつけて窓の開閉にも気配りしている。向いにある小学児童の声が懐かしく感じられたりするが、時々昼寝の邪魔になると言う利用者が1名おられる。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食堂席以外にもソファや椅子を置いている。廊下に椅子や植物や小物を置いたりして会話のきっかけにでもなるように工夫したり、景色を眺めたり出来るようにしている。バルコニーには植物やテーブルセットを置いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた棚、椅子、テレビ、カセットラジオ、布団、小物、写真立て等を置いてもいいですよと入居時にお話している。又、上記の物を居室に置いて生活をされている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気扇を使用したり、天候に応じて毎日窓を開け空気交換を行っている。ホールや居室にはオゾン空気洗浄機と各部屋毎に床暖房の温度が管理できるようになっている。ホールには加湿器を設置している。ホールには温度計と湿度計を置き管理している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、風呂場、トイレ、エレベーター、階段に手すりの設置。車椅子も各ユニットに置いている。転倒時の衝撃防止や内履きを履く為に転倒した等の事故を未然に防ぐ為にカーペットを全館に敷いており、段差も無い居住にしている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室に取り付けられている名札が見づらい、居室やトイレが分からなくなる利用者には、個別に大きな名札を取り付けるなどしている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>2階バルコニーには、テーブルや朝顔の鉢植えを置いたり、洗濯物を干したりしている。3階ベランダに朝顔の鉢植えを置く等自由に外に出て活用できるように工夫している。ホールには食堂席の他にも椅子やテーブルを配置している。廊下等にも椅子や小物(絵等)設置し、時々思いで過ごせるように工夫している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・理念として掲げているように、入居者と職員と一緒に、笑顔でゆっくり楽しみながら、日々の生活を過ごすようにしている。
- ・利用者やご家族、職員と検討して、個々に応じた支援を行っている。